

# 2024 年度 チャイルドライン OSAKA 年次報告書



|     |                   |        |
|-----|-------------------|--------|
| I   | チャイルドライン OSAKA 概要 | 1 ページ  |
| II  | 受けとめた「声」のデータ      | 4 ページ  |
| III | 2024 年度をふりかえって    | 10 ページ |

## I チャイルドライン OSAKA 概要

1. 事業の開始 2001 年 1 月より常設
2. 事業目的 子どもの権利条約の理念に基づき、子どもの「声」を受けとめることで、子どもがあらひのままで安心できる心の居場所を作ります。  
チャイルドラインの広報をすることで、子ども・子どもにかかわるおとな・社会へ、子どもの最善の利益と子どもの意見表明の権利の大切さを伝えます。(注※1)
3. 実施内容 18 歳までの子どもの専用電話「チャイルドライン」全国統一フリーダイヤル(0120-99-7777)、専用「オンラインチャット」の開設  
毎週金曜日 16 時～21 時チャイルドライン実施  
第3金曜日 16 時～21 時オンラインチャット実施(2024 年 1 月より)  
  
日曜スポットチャイルドライン実施 8 回  
「夏休み明け全国キャンペーン(8/22～9/4)」参加 (8/23 8/30)  
「ネットでんわ(注※2)」試行参加(8/23)  
「ずっとつながる 24 時間キャンペーン(11/20 16 時～11/26 21 時)」参加(11/20 21 時～11/21 10 時、11/22 21 時～11/23 16 時)  
「孤独孤立相談ダイヤル(5 月連休・年末年始)」(内閣府・民間団体連携)参加 (5/3、1/3)  
  
【講座・研修】  
7 月～9 月 オンラインにて「受け手ボランティア養成講座」、9 月「実践講座」を実施し、4 名が新スタッフとして活動開始  
  
「オンラインチャット受け手養成研修」(2/2)を実施し、オンラインチャット受け手 3 名登録  
  
チャイルドライン 25 周年記念フォーラム(1/18)に参加  
テーマ：子どもの声が社会を変えていく～聴きつづけて 25 年～

チャイルドライン支援センター（注※3）全国研修（1/19）に参加

全体会 テーマ：チャイルドラインのこれからを考える

分科会 ① 受け手の危機を考える

② 養成講座 受け手継続研修のヒント

エリア研修（2/9）に参加

テーマ「愛着障害と発達障害の理解と支援」

講師 米澤好史氏（和歌山大学教育学部）

#### 【その他】

定例会 10回

チャイルドライン支援センター総会（6/10）参加

大阪連絡会（注※4）、近畿北陸エリア（注※5）会議、参加

2023 年度年次報告書作成

厚労省より 「担い手増員のための研修支援（自死予防）」受給

「ユニバーサル財団」より助成金受給

#### 4. 広報活動 <「夏休み明け全国キャンペーン」キャンペーンポスター配布>

大阪市立中学校へ 133 枚

#### <「ずっとつながる 24 時間キャンペーン」カード配布>

大阪府立高校 1 年生・大阪市港区小中学生へ約 50,000 枚

\*カードにて「11/20 は世界こどもの日（子どもの権利条約採択日）」

をアピール

カード作成費・配布送料はホームページで呼びかけた寄付金・大阪連絡会協力金を使用

#### 大阪連絡会としての取り組み

<カード配布>門真市・豊能郡・能勢町・寝屋川市・大東市の小中学生へ 約 34,000 枚

<ポスター配布>大阪府内の私立小中高校へ 186 枚

大阪府立高校・中学校へ 213 枚

寝屋川市・門真市の市立小中学校へ約 60 枚

## 2024 年度「受け手ボランティア養成講座」チラシ

～18さいまでの子どもがつながるチャイルドライン～

**Zoomによる  
オンライン講座**

2024年度チャイルドラインOSAKA  
受け手ボランティア養成講座  
**参加者募集！！**

チャイルドラインは、18歳までの子どもがどんなことでも安心して話すことのできる心の居場所です。  
子どもは電話やチャットで話を聞いてもらい、受けとめてもらえたと感じたときに、「自分は大切な存在だ」と気づくことができます。子どもの権利を学び、「聴く人」になって、私たちと一緒にボランティアをしませんか。

**子どもの権利条約批准30年 活動メンバー研修第2弾！**

**開催日** 2024年7月27日（土）～9月15日（日）  
講座の詳細は募集の養成講座プログラムをご確認ください。

**受講料** 連続講座 18,000円（学生・個人会員10,000円）  
公開講座 一コマ2,000円 ＊講座②のみ3,000円となります  
（学生・個人会員1,000円）

**申し込み方法** ①子ども情報研究センターホームページの講座案内から「受講申込書」をダウンロードしFAX・Emailにてご送付ください。  
②お申し込み後Googleフォームにてお申し込みください。

**申し込み締切** 2024年7月20日（土）  
●受講料は事前にお申し込みとさせていただきます。  
●申込先は申込書をお送りいただいた方に郵送ご案内いたします。  
●申請後のキャンセルや会場変更が必要な場合はご相談ください。

**問い合わせ先** 公益社団法人子ども情報研究センター事務局  
TEL:06-6001-4001 大阪市南区美土町1-1-1404室  
TEL:06-4708-7087 FAX: 06-4394-8501  
E-mail:kenken@kajoken.jp

※他に「チャイルドライン受け手養成講座申し込み」と併読してください。

主催：公益社団法人子ども情報研究センター  
ホームページ：https://kajoken.jp/index.html  
(右のQRコードからホームページが開きます)

ホームページ  
QRコード

2024年度チャイルドラインOSAKA  
受け手養成講座プログラム

Zoomによる  
オンライン講座

**公開講座①** 7/27(土)13～15時 子どもの権利条約を学ぶ 吉永省三さん(子どもの権利条約総合研究機関) / 公益社団法人子ども情報研究センター理事長  
15時15分～16時 チャイルドラインについて(ビデオ観覧) 16～17時 出迎いのワークショップ

**公開講座②** 7/28(日)13～14時 「性」の権利」と倫理観について 佐々木さん・高橋実美さん(佐賀県後援会) / 公益社団法人子ども情報研究センター代表理事

**公開講座③** 8/3(土)13～15時 社会的風通の子ども権利 高橋実美さん、りくろく人チャイルドライン会、いたしあそびの子どもアドボカシー会等共催

**公開講座④** 8/3(土)15時15分～16時45分 学校の中の子どもの声 佐藤さん(大阪府立大学) / スクールソーシャルワーカー・NPO法人グリーンサポート・リフレックス等共催

**公開講座⑤** 8/18(日)13時～14時半 家庭や地域の中の子どもの声 阪上白香さん、NPO法人AKKAO等共催

**公開講座⑥** 8/18(日)14時45分～16時15分 子どもの声を「聴く」 内山祥子さん、NPO法人子どもアドボカシーセンターOSAKA等共催

8/25(日)13時～14時半 子どもの声を聴き続けて 今橋千恵 (チャイルドラインOSAKA代表)

8/25(日)14時45分～16時15分 ロールプレイ①

9/1(日)13～14時半/14時半～16時 ロールプレイ②③

9/15(日)13時半～15時 振り返り&修了式(対面)

「チャイルドラインOSAKA」は毎週金曜日と月1回程度で日曜日の16時～21時に子どもの声を聞いています。活動スタッフ希望の方は、全講座受講後(女席の場合、候補あり)、子ども情報研究センターの個人正会員に加入(年会費10,000円)し、実務講座(無料)、活動現場の見学をしていただきます。

主催：公益社団法人子ども情報研究センター  
ホームページ <https://kajoken.jp/index.html>

ホームページ  
QRコード

## 2024 年度に配布したチャイルドラインポスター

聴かせてほしい あなたの声

どんな苦しみも相談していいから  
もしやれど相談がなくても  
チャイルドラインはいつでもあなたの話を聞いてくれる  
自分自身を大切にしたい気持ちに寄り添って話を聞いてくれる  
どんな苦しみも相談が出来るから  
あなたの苦しみを受け止めるから  
チャイルドラインはいつでもあなたの話を聞いてくれる  
自分自身を大切にしたい気持ちに寄り添って話を聞いてくれる

18歳までの子どもがつながる  
チャイルドライン  
0120-99-7777 受付 9時～21時  
チャット 22時～23時

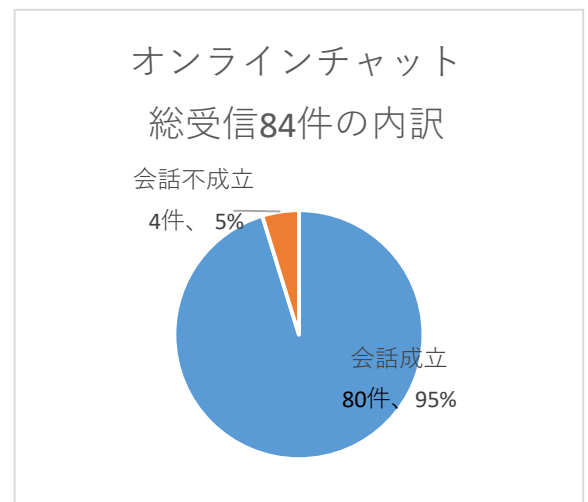
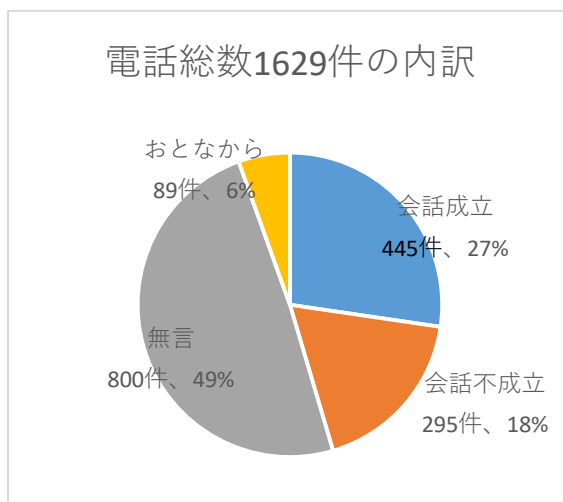
夏の全国キャンペーン 毎年8月22日～9月4日

## 2024 年度に配布したチャイルドラインカード



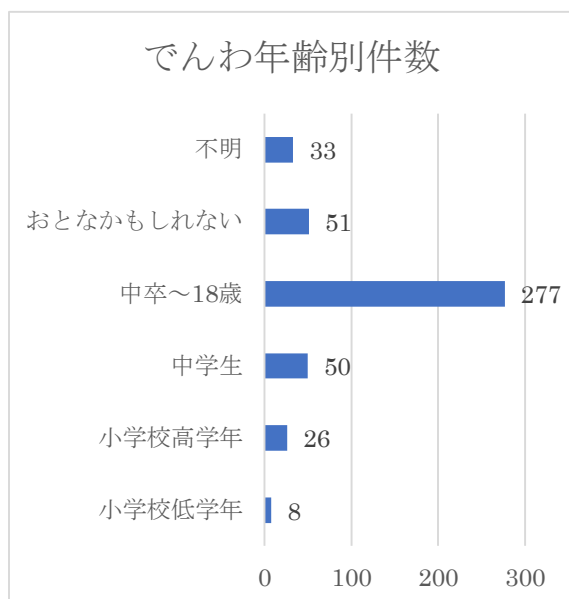
## Ⅱ 受けとめた「声」のデータ

2024年度はチャイルドライン（電話 60 日、オンラインチャット 15 日）を開設し、電話 1,629 件、オンラインチャット 84 件を受けました。

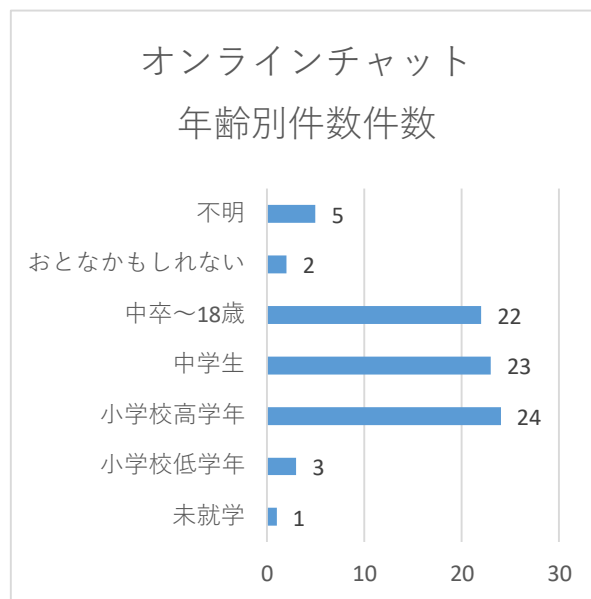


発語はあったが、会話として成立しなかった場合や、コミュニケーションがとれないもの、内容がよくわからないもの、一言で終わってしまうもの、セックステレフォンなどは、会話不成立としています。

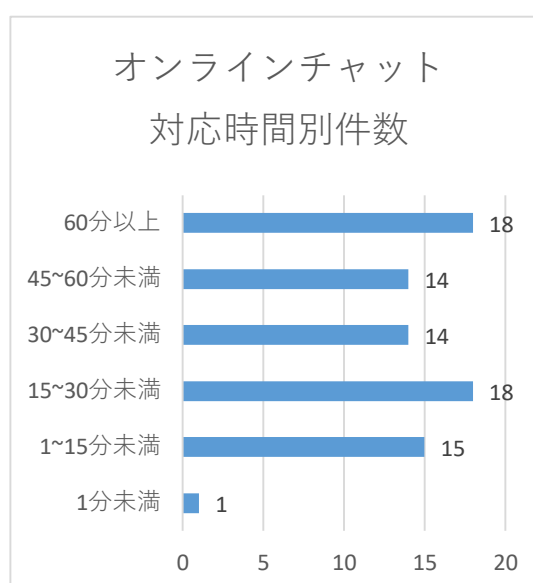
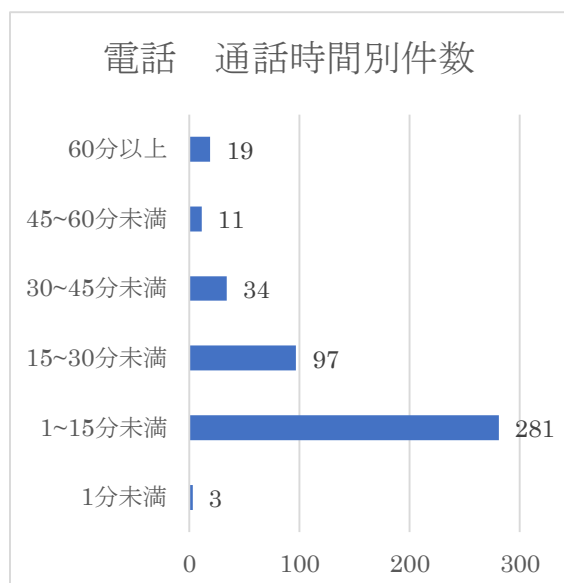
（電話）会話成立した 445 件の内訳



（オンラインチャット）会話成立した 80 件の内訳

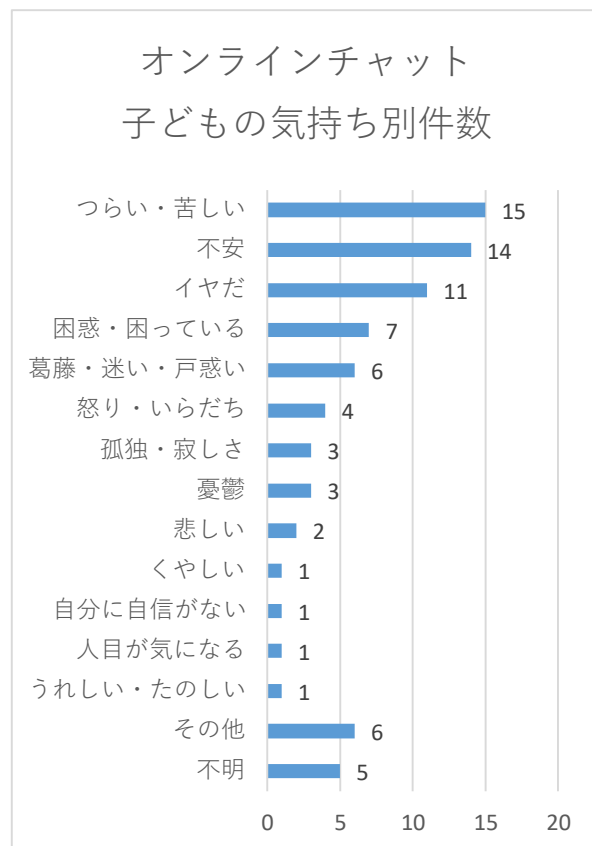
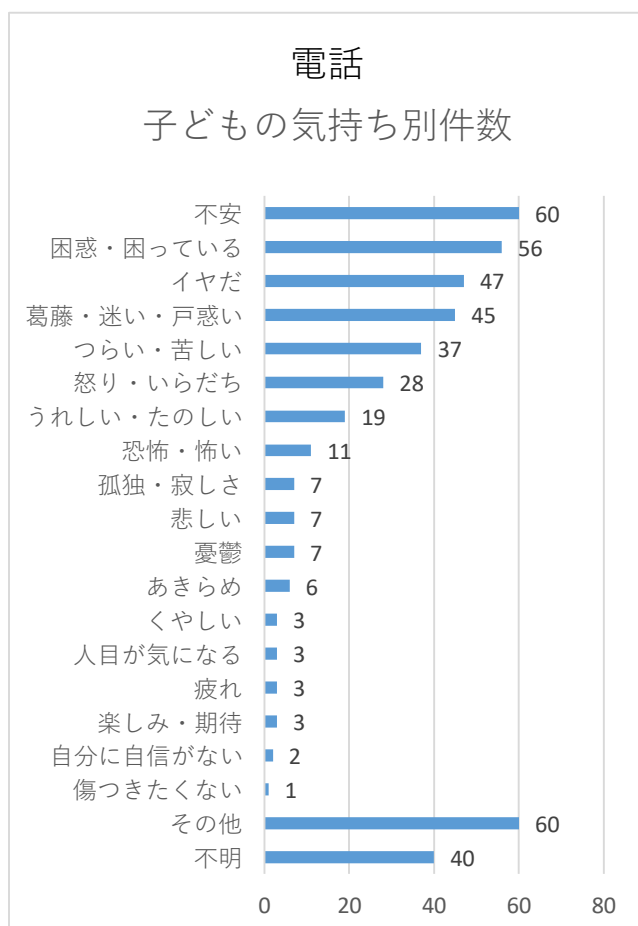


年齢は子どもからの自己申告を優先に、不明な場合、受け手がやり取りして感じた主観（声の感じや言葉使い・話の内容など）で決めることもあります。電話に比べ、オンラインチャットでは低年齢からの件数が多いです。



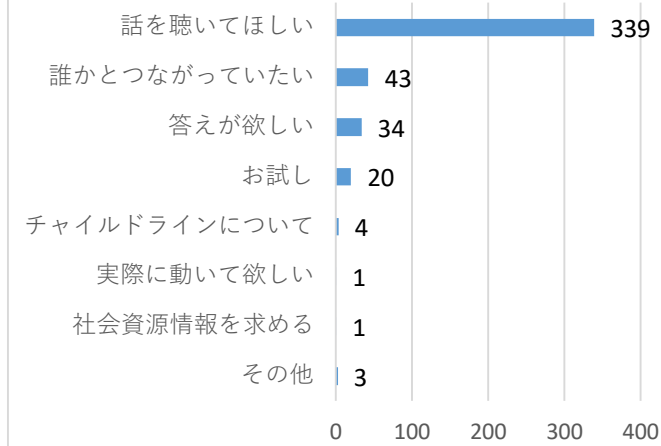
電話に比べてオンラインチャットは対応時間が長くなる傾向があります。文字入力に時間がかかることも一因かもしれません。電話だと、少しの沈黙が耐えられず電話を終える子

どももいるようですが、オンラインチャットはそういう焦りをあまり感じないのか、子ども自身も自分のペースでじっくりと言葉を選んでいるように感じます。

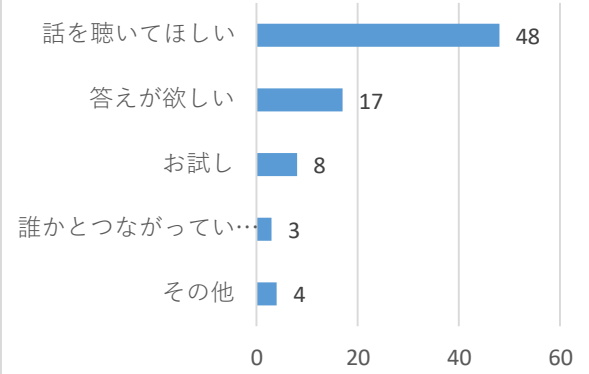


子どもの発した気持ちを比べてみると、電話よりオンラインチャットの方がより深刻な内容について切実な思いを訴える傾向が感じられました。「うれしい・楽しい」「楽しみ・期待」といったポジティブな気持ちから電話をかけてくる子どもも少ないですが一定数います。オンラインチャットで話すことが浸透していけば電話と同様にそういう気持ちを伝えようと訪れてくれる子どもが増えてくる可能性もあるのではと思います。

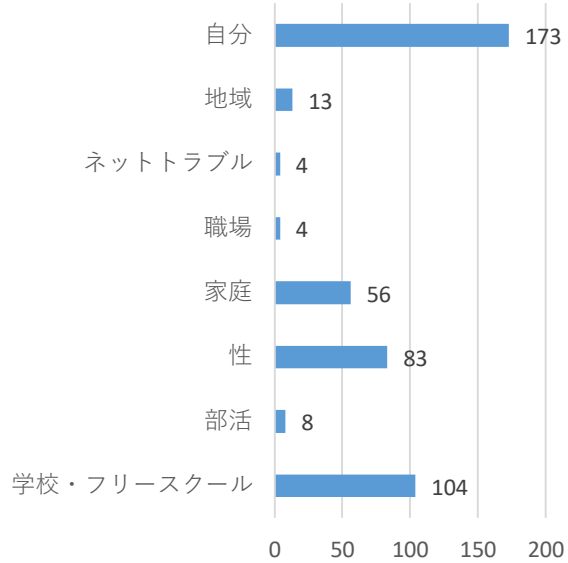
電話動機別件数



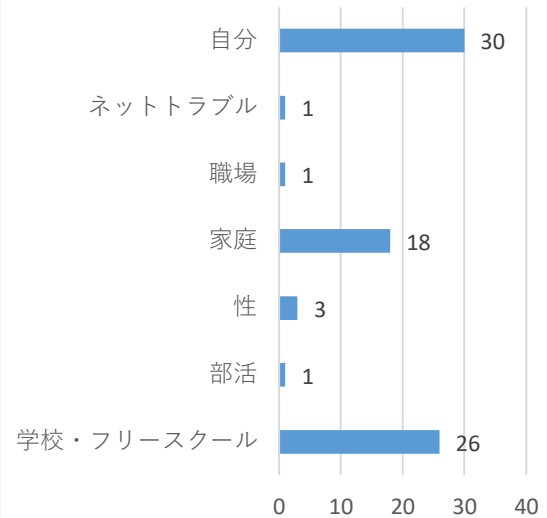
オンラインチャット  
動機別件数



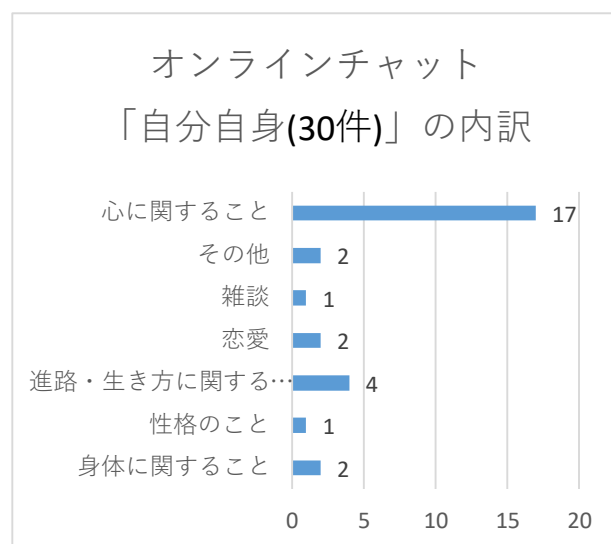
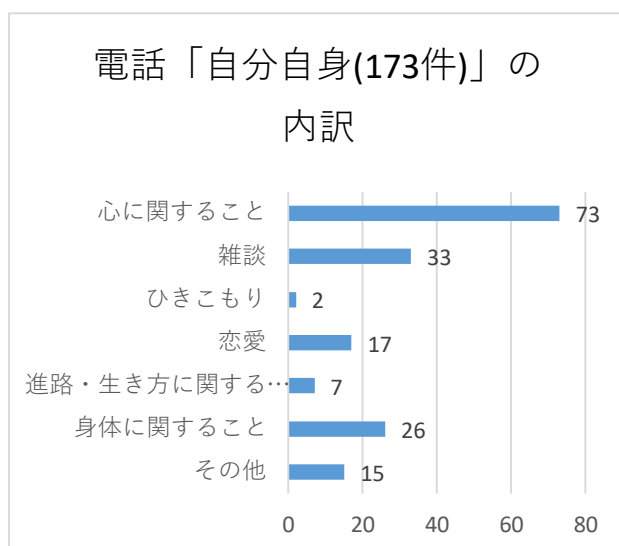
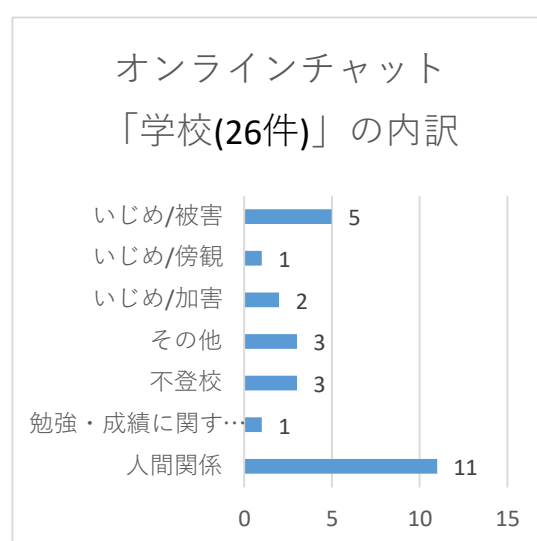
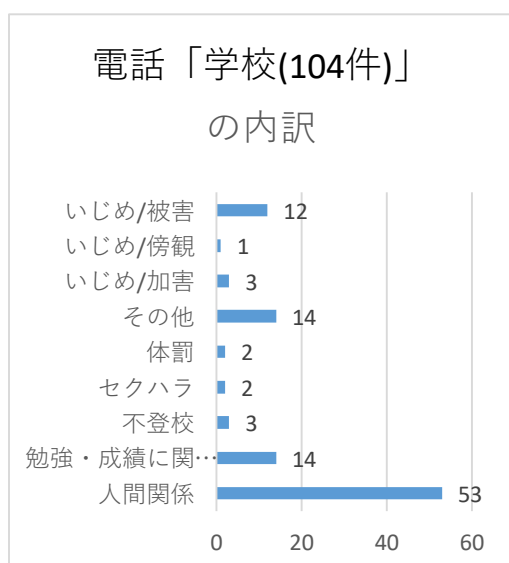
電話 主訴別件数件数

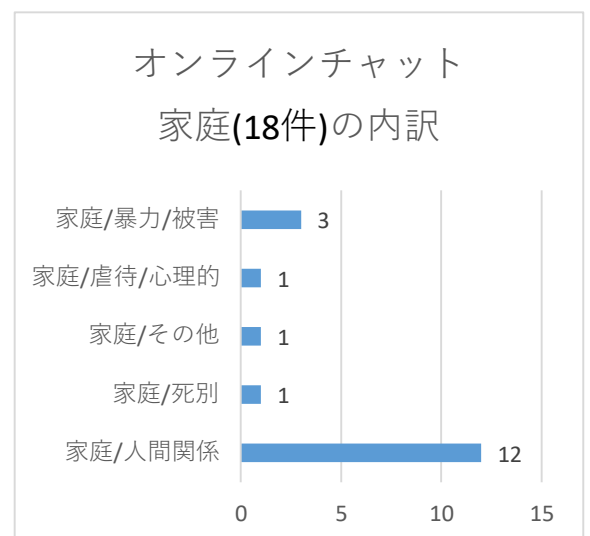
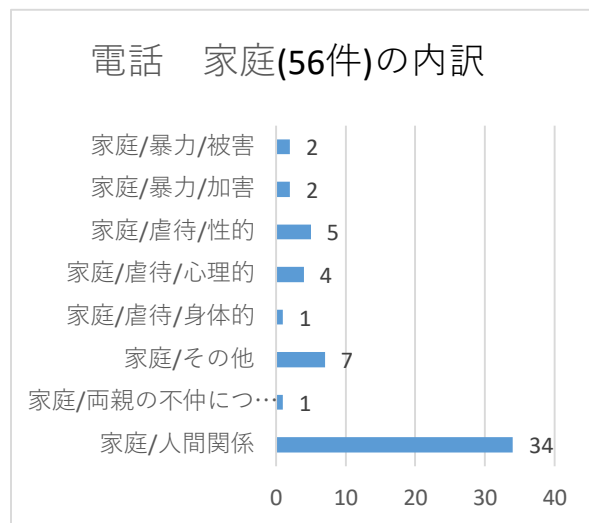


オンラインチャット  
主訴別件数件数



次に,件数の多い主訴「学校」「自分自身」「家庭」の内訳をあげています





### Ⅲ 2024 年度をふりかえって

#### 【「死にたい・消えたい」の言葉の向こうの気持ちを考える】

2024 年、厚労省の報告によりますと小中高生の自殺者数が 527 人と過去最多になったとのことです。子どもたちにとってこの社会はどう見えているのでしょうか？

連日、おとなでもうんざりするニュースが報道され、気候変動の影響で自然災害が多発、食品など日用品の価格高騰は日々の生活を脅かしています。

おとなの心のゆとりのなさはそのまま子どもとの生活に影響していきます。のんびりじっくり一人ひとりの成長を見守られるべき子どもたちが、家庭や地域・学校園で他者と比べられ、あせり、自信を失い、傷ついている姿があるのではないのでしょうか？

少し前、実際に出会った高校生たちの会話で「こんな〇〇(自分の名前)に人権なんてない！」と自虐的に自己否定している姿を見たことがあります。「人権」という言葉をそんな風に使っている子どもたちの世界を想像し、だれかに責められる前に自分でおとしめることでなんとか小さな自尊心を守ろうとしているのだらうと感じました。「人権は誰にでもあるよ」など正論で説いたとて、目の前の子どもたちには響かないでしょう。

チャイルドラインで出会う子どもたちは、それでもおとなとのやり取りを求めて自分からアクセスしています。「慰めて欲しい」「こんな自分を受け入れてほしい」「わかってほしい」「自分に向き合って欲しい」・・・いろいろな気持ちがあって電話やチャットからおとなの様子を恐る恐るうかがっているのです。

「あなたに直接会うことはないけれど、また、お話ししたいと思ったよ」・・・「死にたい」「消えたい」と小さな声で話す子どもにどんな言葉を届けることが出来るでしょうか？わたしたちはチャイルドラインを通じてなにが出来るでしょうか？「また、話せたらいいね」・・・そんな叶うかわからない希望を伝えることで精一杯です。ただただ、小さな声に向き合い、子どもの気持ちを受けとめることしかできないのです。今、この瞬間の気持ちを否定せず精一杯受けとめるため、子どもの発する声や言葉に向き合っています。

「最近、チャット GPT に相談に乗ってもらっている。だって、こっちが傷つくことを言わないから・・・」これも、直接出会った子どもに教えてもらった話です。最近の生成 AI の優秀さに恐怖を感じながらも、生身の人として揺れ動く気持ちを仲間たちと支え合いながら、これからも電話やパソコンの前に座って子どもたちの声を聴き続けます。

そして、子どもたちと共に生きるおとなとして、自分の言動を振り返り、子どもの生きやすい社会を身近なところから整えていくために、出会った子どもの声を社会にしっかりと発信していかなければと思っています。

## 【これからのチャイルドラインを考える】

チャイルドライン支援センターでは立ち上げから 25 周年ということで 12 月に記念フォーラムと全国研修を企画、OSAKA から 2 名のスタッフが当日参加しました。

「子どもの権利条約」が 1994 年に批准され、ほどなく全国各地で子どもに関わる活動をしてきた団体で自然発生的に「もっと子どもの声を聴こう！」という思いから「チャイルドライン」実施への大きなうねりが起きました。そのうねりを受けとめる場として 1999 年にチャイルドライン支援センターが設立されました。そして 2009 年からの全国統一フリーダイヤル実施へと全国の仲間と膝をつき合わせ、知恵を出し合い、ようやくたどり着いたのです。

「子どもの権利条約」が謳う「子ども観」を学び、多くのおとなが子どもの声を聴こうと自分の時間を使いボランティアとして電話の受け手を担ってくれました。きっと、チャイルドラインの活動からは卒業しても、それぞれの現場で子どもの声を聴く時に役立ててくださっているでしょう。

「電話」というツールがいつしか「スマホ」というより多機能なツールに変わり、コロナ以降は「タブレット」も子どもに身近なツールに加わりました。「声を聴く」だけでなく、「言葉を受けとめ、気持ちを聴く」という、子どもたちのコミュニケーションの場所に、どうやっておとなも参加させてもらえるでしょうか。おとな発で始まった「チャイルドライン」ですが、それでもここまで続けてこられたのは、子どもたちからたくさんの声が届いたからです。これからのチャイルドラインを創っていくためには「子どもの参加」が欠かせません。子どもが安心してチャイルドラインにアクセスするためには、子どもの周囲のおとなの理解も欠かせません。

*親の携帯電話を借りないと電話をかけられない*

*電話だと声を聞かれるから安心して話せない*

*スマホを持っているけど使用制限がかかっていて自由に使えない*

・ ・ ・ さまざまな事情でアクセスできない子どもたちがまだまだたくさんいます。「子どもの権利」を知らずに、知っていてもうまく使えず理不尽さを感じて子ども時代を過ごす子どもたちもまだまだたくさんいるのではないのでしょうか？

「あなたの声を聴きたい」と思っているおとなが全国にいて、そしてそんなおとなたちが力を合わせて「チャイルドライン」を今以上に子どもがアクセスしやすいツールにしたいと考えていること、そんなおとなの頑張りも感じてもらえたらいいなと思っています。

2024 年度も 11 月 20 日の「世界こどもの日」を中心に「24 時間キャンペーン」を実施しました。まだまだいつでもつながるチャイルドラインの実現にはほど遠いですが、少しずつ子どもたちに浸透していくといいな、と思える活動です。これからも、全国の仲間と議論しながら出来ることを探していきたいと思っています。

（注※１）子どもの権利条約は、子どもの最善の利益を第３条に位置づけ、子どもにかかわるすべての行動において、その子どもの最善の利益が第一に考慮されなければならないとする原則を定めました。これはすべてのおとなが公私を問わず踏まえるべき原則です。その考慮のために、おとなは子どもの意見に耳を傾け尊重することが必要なのであって、これが子どもの意見表明・参加の権利として第１２条に位置づけられました。チャイルドラインの活動は、この子どもの権利条約の精神と原則に基づく活動です。

（注※２）ネットでんわ

Skype, LINE などのようにインターネット回線でつながる電話。子どもはスマートフォンにチャイルドライン支援センターホームページ内のアプリをダウンロードし、話すことができます。

（注※３）チャイルドライン支援センター

特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター

子どもが生きやすい社会をめざして、全国のチャイルドライン実施団体（2025 年 6 月現在 41 都道府県 70 団体）と 協働し、子どもの「声」から気づいたことを社会に発信し、子どもの育つ環境が整うことを目指しています。

<https://childline.or.jp/> より、年次報告・各種データなど閲覧できます。

（注※４）大阪連絡会

大阪府内にある 6 実施団体の総称。 情報交流の場で意見交換や合同研修などを行う。 合同で大阪府立学校、私立学校へのポスター配布(約 400 枚)・ 2015 年に起きた寝屋川市中 1 男女殺害事件をきっかけとし、府内の未配布地域へのカード配布による広報にも取り組む。

（注※５）北陸近畿エリア

富山・石川・福井・滋賀・兵庫・奈良・京都・大阪の 13 実施団体の総称（2025 年 6 月現在）





## 2024 年度 チャイルドライン OSAKA 年次報告書



編集発行 公益社団法人 子ども情報研究センター

〒 552-0001

大阪市港区波除 4-1-37 HRC ビル 5 階

TEL 06-4708-7087 FAX 06-4394-8501

HP <http://www.kojoken.jp/>